

追悼 仲代達矢さん たくさんの感動をありがとう



上段：
設置された献花台には、たくさんの花が手向けられた。

下段：
これまでの交流を振り返るスライドが上映されたほか、館内には過去の公演のパネルが展示された。



令和7年	令和5年	令和4年	令和3年	平成29年	平成27年	平成25年	平成21年	平成16年	平成13年	平成9年	平成7年
能登演劇堂開館三十周年、無名塾五十周年。復興公演として「肝っ玉おっ母と子供たち」上演	いしかわ百万石文化祭2023 七尾市地域文化発信事業「等伯「反骨の画聖」」	第7回ロングラン公演「いのちほろこにふるこの物語」	仲代達矢役者七十周年記念公演「左の腕」	第6回ロングラン公演「肝っ玉おっ母と子供たち」	仲代さんが文化勲章を受章する	第5回ロングラン公演「ロミオとジュリエット」	第4回ロングラン公演「マクベス」能登限定公演で約3万3千人が訪れる	新七尾市誕生。第3回ロングラン公演「いのちほろこにふるこの物語」仲代さんが七尾市名誉市民に就任	第2回ロングラン公演「ワインザーの陽気な女房たち」	第1回ロングラン公演「いのちほろこにふるこの物語」	能登演劇堂オープン こけら落とし公演「ソルネス」 仲代さんが名誉館長に就任

仲代さんと能登演劇堂のあゆみ

仲代さんとの思い出を振り返る

仲代さん40年間本当にありがとうございました。

昭和58年、仲代さんが「この恵まれた自然の中で演劇の稽古ができれば」と言っていたと聞き、無名塾の誘致に取り組みました。昭和60年に無名塾の合宿がスタートしてからは、仲代さんの計らいで稽古の公開などをしていただき、地域ぐるみの交流を続けてきました。

その後、町おこしの起爆剤にと劇場を作る計画が始まりました。仲代さんからは役者目線でのアドバイスだけでなく、さまざまな舞台関係者の方を紹介していただきました。ホリゾン(舞台奥の大扉)の設置は難題でしたが、皆さんにいろいろなお話をいただいて今の形となり、能登演劇堂の目玉になっています。

こうした試行錯誤を繰り返して、合宿開始から10年目に能登演劇堂が完成しました。その際に仲代さんから、3年や5年ごとにイベントを行ったほうが良いと助言があったことで、現在のような町を挙げての取り組みにつながりました。

今後も仲代さんの応援を感じながら、演劇によるまちづくりを進めていきたいです。



村田 正明さん
(旧中島町 企画課長)

3月9日、七尾市名誉市民・能登演劇堂名誉館長で、昨年11月に亡くなった仲代達矢さんをしのぶ会が、能登演劇堂で開催された。能登演劇堂や無名塾の関係者、地元住民など約400人が、仲代さんとの別れを惜しんだ。

仲代さんが主宰する無名塾の塾員や茶谷市長らによる代表献花が行われたほか、式の前後に設けられた自由献花の時間には、参加者が持参した花をおのおの手向けた。

式では、仲代さんの出演舞台や中島地区との交流の軌跡を振り返る映像のほか、能登演劇堂建設に携わった関係者から当時のエピソードが語られた。思い起こされる在りし日の光景に、参加者は目元を拭いたり笑顔を見せたりして、仲代さんへの思いをこぼした。

閉会を前に、無名塾を代表してあいさつした赤羽秀之さんが「いつか私たちがそちらへ行ったとき、『また来たのか』と言わず仲間に入れてください。それまでこちらで、しっかり稽古を積んでいきます」と仲代さんへ語り掛けると、会場は大きな拍手で包まれた。

パネル写真撮影：加藤 孝